

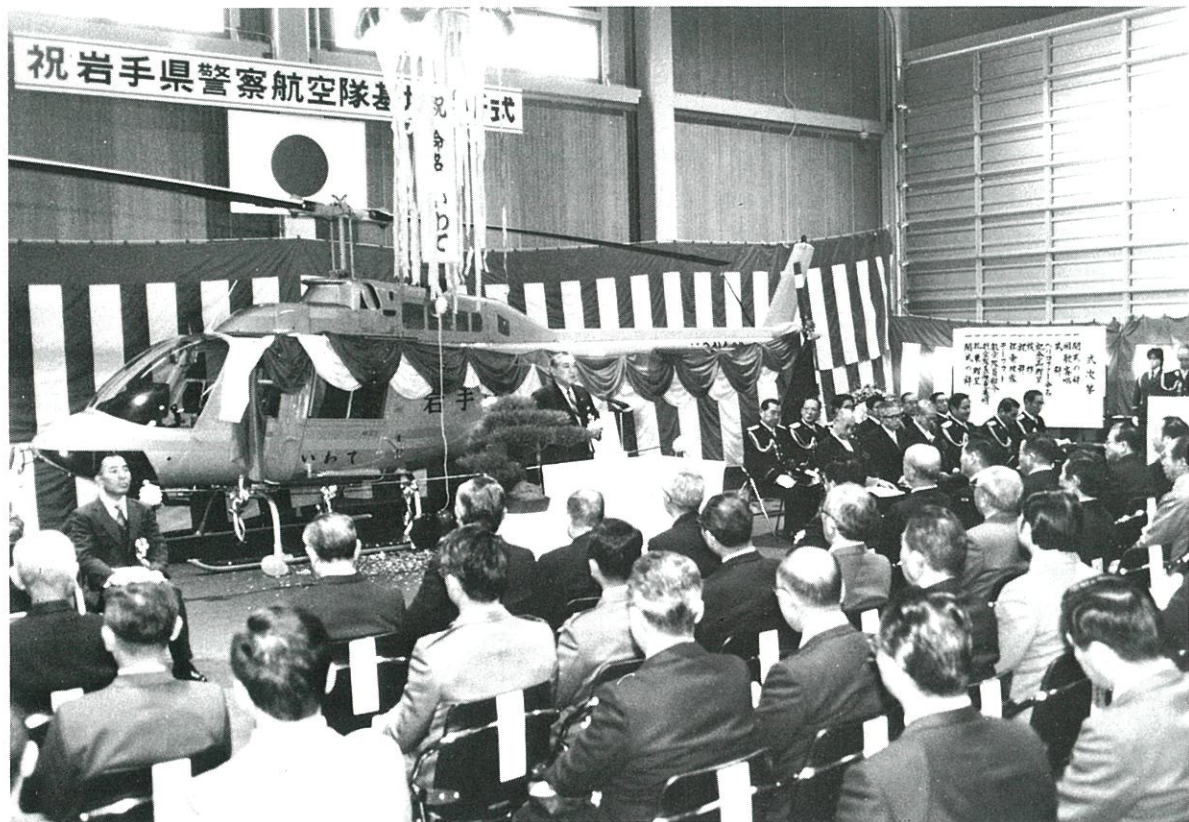


スタンバイ
県警ヘリ

“いわて”

岩手県警察航空隊

花巻市葛3-183-1



▲県民の期待を集めての基地開所式。花巻空港にある管理事務所には、真新しい看板が掲げられている

岩手県警察航空隊



▲いよいよ発進。トラックにはヘリコプター始動用のバッテリーが装置してある

岩手の空の玄関口、花巻空港を基地に「岩手県警察航空隊」が誕生。新春の陽光を浴びてヘリコプターがスタンバイしている。

ヘリコプターの愛称は“いわて、米国製の5人乗り小型ヘリで、最高速度は240^{キロ}、航続距離648^{キロ}、航続時間3時間30分の性能を誇る。

基地から沿岸部としては最短距離の釜石市までは、気象条件にもよるが約20分、県北の久慈市には約40分の航続時間で着けると菊地隊長は話す。

高速交通時代を迎え、次第に広域化、スピード化している犯罪の取り締まりに当たるほか遭難救助などの

緊急出動にも威力を発揮する。このため、県内16の各警察署ごとに各1から3カ所程度の計39カ所に臨時ヘリポートを確保し、広大な県土を空から見守る。

昨年11月下旬に「いわて」が配備されて以来、隊員たちは空から県内の地理、気象状況を確認ながらの飛行訓練と、空、海、陸一体となった訓練も終え出動に万全を期している。

自らも操縦かんを握るベテランの菊地隊長をはじめ4人の隊員たち。今日も新しい航空隊では緊急出動に向けて緊張感が漂う。今、ふるさとの空の防人^{さきもり}に県民のかける期待は大きい。



▲「いわて」の型式はベル式206B型。全長11.82^{メートル}、全高3.04^{メートル}、全幅1.98^{メートル}、総重量約1,500^{キログラム}



▲操縦席の菊地隊長。自衛隊で操縦教官の経験を持つベテランパイロット



▲県民の安全を空から見守る隊員たち。緊急の出動に向けての綿密な打ち合わせが続けられている



▲格納庫で機体整備をする隊員。日常点検とともに慎重な整備が行われる